

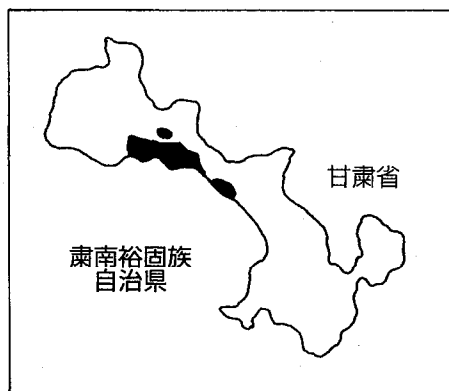
ユグル（裕固）族は、祁連山きれんざんの北麓、中国甘肅省の
肅南裕固族自治県を中心に居住する少数民族で、人口
は一万人余を数えるに過ぎない。

ユグル族の民族名は「ウイグル」に由来する。漢籍
史書では撒里畏兀サルイウイグル、錫喇偉古兒シラウイグル、黃頭回鶻ウイグルなどとして、
ウイグル族の一派として区別されてきた（「サリ」「シ
ラ」は「黄色」を意味する）。ユグル族はその末裔であ
り、欧米の文献では「サリ・ユグル」「シラ・ユグル」
などと呼ばれている。ウイグル族がイスラム教徒であ
るのに対して、ユグル族は仏教を信仰しており、生活
様式や風俗習慣はモンゴル族やチベット族のそれに近
い。

ユグル族の言語状況は、言語と民族の研究者にとつ
てきわめて興味深い事例を呈している。それは、この
民族が漢語を含めると系統の異なる三つの言語を母語
とする集団によって構成されていることである。三つ
の言語というのは、自治県内の東部に分布するモンゴ
ル系の「東部ユグル語」、西部に分布するチュルク系の
「西部ユグル語」、および漢語である。それぞれの言語
を母語とするものの数は、いずれも全体の三分の一ほ
ど（三千〜四千人）である。

東部ユグル語と西部ユグル語は上述のように系統が
異なることから、文法も語彙も異なり、互いに通じな
い。これらの話し手の大半は、漢語との二言語併用者

であり、共通語として漢語が使われている。またユグ
ル族には、固有の文字がなく、書記にも専ら漢語が用
いられる。言語の共通性は、民族の同一性を決定する
上で、一つの要件とみなされることが多いが、ユグル
族の場合、系統の異なつた民族語を話す集団が一つの
民族としてのアイデンティティを保っているのである。
東部ユグル語の言語的な特徴について見ると、文法
の枠組みも語彙の大半もモンゴル語と共通である。語
順は、主語―目的語―動詞の順をとり、形容詞や副詞
等の修飾語は被修飾語の前に置かれる。関係代名詞、
冠詞、前置詞はなく、文末に疑問の助詞を置いて疑問



リレ一連載▶中国の諸言語[15]

東部ユグル語

東部ユグル語の「謎」と「諺」

● 謎

barsa barəm le dy:rnen

握めば 一握りに (否定) 満たない

talsa tala dur:nen

放てば 平野に 満ちる

ʃegazn main nogozn ewerti wain

白い 山羊が 緑色の 角を持っている

mər di:re mōŋge muna wain

道の上に 銀の 鞭がある

ʃe aw jidanən, bu aw jidanən

君も 取れ ない 私も 取れ ない

● 諺

orog tarage xoli:ne sein

親戚は 遠くが よい

telezn kusunə ɔiri:ne sein

薪(と)水は 近くが よい

xwar:te garsan ʃekense

先に 出た 耳を

airsa garsan ewer dairwa

後から 出た 角が 追い越した

(出鱈目の誉れ)

(謎の答：上から順に目、葱、蛇)

文をつくる。動詞の活用形の前に打ち消しの副詞を置いて否定を表す点を除けば、語順は日本語とほとんど同じである。

文法を中心は、名詞や動詞に付く様々な語尾や接尾辞である。日本語の「てにをは」にあたる格語尾や、命令・連用・連体・終止といった動詞の多彩な活用語尾があるほか、使役や受け身も動詞語幹に接尾辞を付けることによって表される。

母音調和と呼ぶ現象があり、名詞や動詞に付く接尾辞の母音が語幹の母音に依りて交替する。

東部ユグル語に特有の特徴としては、モンゴル語の属格と対格がこの言語では融合して同形となっていること、またモンゴル語では語の第一音節にアクセントがあるのに対して、この言語では語末の音節にアクセントがあるといった点が指摘できる。

甘肅省、青海省には、土族語、保安語、東郷語といったモンゴル系の言語が存在しているが、いずれもモンゴル語との差異は大きい。言語的な特徴からすれば、モンゴル語とこれらの言語との中間に位置するのが東部ユグル語である。

(日本大学・モンゴル語学)

栗林 均 (くりばやし ひとし)